



JFグループの一員として 水産業への貢献

海と暮らしを守る

周囲を海に囲まれた日本。

海がもたらす恵みを誰もが享受してきました。

この恵みを次の世代へ引き継いでいくために、

海を守り、持続可能な漁業を進めていかなければなりません。

農林中央金庫は、JFグループの一員として、

海と暮らしを守るため、

漁業者をはじめ浜のみなさまと連携しています。



環境・生態系を守る取組み

漁業は、その活動自体が海の環境を守る役割を果たしています。陸から海に流入した栄養分が食物連鎖により魚介類に取り込まれ、漁業がそれを適度に捕獲することで栄養分が陸に循環するのです。

そして漁業者は、水産業・漁村の多面的な機能を発揮し、環境や生態系を守り育てるためのさまざまな活動にも取り組んでいます。これらの活動が、海を、漁業を、次世代へつないでいくのです。

農林中央金庫は、JFグループの一員として、JFグループが行う多面的な取組みを応援しています。

環境保全 活動

JFグループでは、「資源保護や管理」「害敵生物の駆除」「さまざまな魚介類の生育・産卵の場である藻場の造成」「二枚貝の移植・放流による水質浄化」などの活動に継続して取り組んでいるほか、JFの女性部や青壮年部を中心とした自主的な取組みも進めています。

資源管理型 漁業の推進

“獲る”から“育てて獲る”へ。JFグループでは、漁獲量を決める、産卵場を禁漁区にする、漁具や漁法を制限し小さい魚は獲らない、稚魚や稚貝を育てて放流するなど、さまざまな資源管理活動を全国各地で実践しています。



海浜清掃活動

漂着したゴミ等の収集や清掃など、浜辺の美化に貢献。



JFオリジナルブランド「わかしお」

天然油脂使用。肌にも環境にも優しい。



漁民の森づくり

森を守り育てることで、海に流入する河川の水量・水質が安定。豊かな海づくりにつながります。



JFシェルナース※

稚魚の餌場、隠れ場、保護育成場や産卵場になる貝殻魚礁。貝殻のリサイクルにより、資源を回復しています。



資源管理型漁業※

自主的な取り決めにより、漁業種類の枠を超え、資源の回復を目指します。



海浜清掃ゴミ袋

当金庫が、全国の海浜清掃の参加者に配布。(平成27年度15万枚)



海藻おしば菜

子どもたちや地域住民が海の環境保護について学ぶ糸口となるよう、当金庫が、全国のJF女性部・青壮年部に配布。



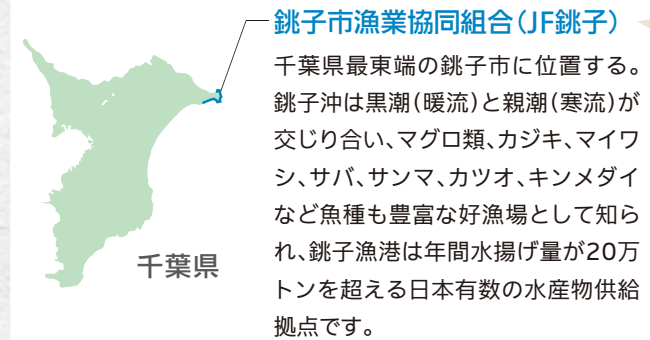
間伐材を使用した箸

JFが行う日本型食生活の推進や食育活動のために、当金庫が提供。

※写真提供: JF全漁連

資源管理漁業、地元水産物のブランド化、魚食普及活動など、多面的な活動に取り組む“銚子市漁業協同組合”（千葉県）を紹介します。

漁業者と消費者をつなぎ、銚子の浜の価値を高める



高度衛生管理施設として再建された第1卸売市場

首都圏への重要な水産物供給基地である銚子漁港。その最大の特徴は“水揚げされる水産物の100%が生魚”という点です。時に1日5,000トンを超える多種多様な生鮮品をさばく重要拠点が、JF銚子が管轄する第1～3卸売市場（総面積40,243㎡）です。「東日本大震災では、マグロを扱うメインの第1卸売市場が被災しました。しかし、東北の主要港が機能不全となるなか、銚子は『卸売機能を止めるわけにはいかない』と震災の翌週に臨時のマグロ水揚げ所を設置し、8月からは仮設の第1卸売市場で

JF銚子の概要（平成28年3月31日現在）

▶ 組合員数	233名（含准組合員）
▶ 事業の種類	共済事業・購買事業・販売事業・直販事業・製氷事業・加工事業・利用事業・指導事業
▶ 主な漁業種類	沖合漁業（大中型旋網、沖合底曳き網、サンマ棒受け網）、沿岸漁業（一本釣り、延縄および小型底曳き網）
▶ 役職員数	常勤理事1名、非常勤理事10名、非常勤監事3名、職員107名
▶ 管内拠点	本所・2支所

営業を継続しました」と、和田一夫副組合長理事は当時を振り返ります。折しも、第1卸売市場は、老朽化により震災前から建て直しを計画していました。「平成27年3月に完成した新しい第1卸売市場は、鮮度の高い水産物の付加価値をさらに高めるため、高度衛生管理システムを国内に先駆けて導入しました。荷さばき所を開放型から閉鎖型へ変更し車両の進入を防ぐ構造に、また、床を抗菌仕様としたほか、水産物の移送をシステム化し、洗浄には殺菌冷却した井戸水を使用するな



JF銚子
副組合長理事
和田 一夫様

漁業者の思いをしっかりと受け止め、担い手の一人として漁業の未来を切り拓く



JF銚子
代表理事組合長
坂本 雅信様

近年、JFの役割が大きく変化しています。その役割の一つが、さまざまな場面での仲介役です。JFは、いかに漁業者が安定した経営を維持し、所得を向上させていくかを漁業者と一体となって考え、主体的に問題解決に取り組む意識と役割が一層必要になっています。担い手の育成は漁業における重要テーマですが、その解決には漁業者の所得向上の実現が不可欠です。施策としては、6次産業化や高度衛生管理システムの導入等によるブランド化を通じて、消費者に水産物の付加価値を理解いただくことであり、JFは消費者と漁業者の仲介役として徹底的に話し合い、双方のニーズを把握するとともに、互いの距離を近づけるために具体的にPRの機会をつくる

ことも必要でしょう。成田空港が近い銚子においては、海外を見据えた取組みも今後のテーマです。さらに女性部が中心となる魚食普及活動も、消費者との接点をつくり、魚の価値を知っていただくために必要な活動です。

一方、資源管理も、その目的は次世代が安心して持続可能な漁業を担う環境を整備することにあります。海の資源管理では、漁法が異なる漁業者たちの利害が一致しないケースもあります。ここでも、漁業者が共存共栄するために、JFの仲介・調整能力が非常に重要です。

漁業は銚子地域の基幹産業であり、さらに銚子漁港は日本全国からの水産物を扱う水産拠点です。当JFは、地域、そして日本の漁業の担い手であることを十分に自覚し、銚子の浜の基盤を守りながら、さらなる拡充に努めてまいります。



写真左から：①上品な脂が乗り、締まった身が特徴の「銚子つりきんめ」。②銚子沖以外からも水揚げが集まる。③水揚げから仲買人の入札まで、高度にシステム化された第1卸売市場では、2階に一般見学者通路を設けている。④銚子漁港で水揚げされた鮮魚や水産加工品が販売される「銚子みなと町にぎわい市」。⑤JF銚子の直営店やイベントなどで販売される女性部手作りの「まぐろの佃煮」「いかの煮付け」「海藻こんにやく」。

ど、ハード面が高度化したのはもちろん、新しくなった施設をスムーズに運用できるのは、仮設卸売市場において車両搬入を禁止するなど“予行演習”を行ったほか、講習会を開催し、実際に卸売市場を利用する漁業者や仲買人等に高度衛生管理の必要性和運用方法を事前に理解いただいていたからです。現在の第1卸売市場は、国内トップクラスの高度衛生管理施設と胸を張ることができます」。

資源管理とPR活動を両軸に「銚子つりきんめ」をブランド化

銚子の水産物の価値を高める取組みの成功事例の一つが、千葉ブランド水産物認定品「銚子つりきんめ」です。その背景には、約20年前から漁業者とJF銚子が一体となって取り組む資源管理とPR活動があります。「資源管理は、県外の大型トロール船に対する底曳き網漁業の自粛要請がきっかけでした。そこで、自分たちも資源保護に取り組むべきだと、平成9年に『キンメダイ・アカムツ研究会』として、針数の制限、一定サイズ以下の再放流、休漁日の設定などの操業規制を定めまし」と語る金野一男組合理事は、同研究会の会長として長年「銚子つりきんめ」のブランド化に尽力してきました。

「その後も、1本の縄から多数漁獲する延縄漁業を禁止するなど資源管理の強化と並行して、PR活動に努めました」。平成7年に第1回『きんめだいまつり』を開催。以降、銚子マリーナで開催した際には来場者数が5万人に達するなど、着実に知名度を高めてきました。「徐々に“銚子のキンメダイ＝高級魚”という評価が定着し、平成21年には『銚子つりきんめ』を商標登録しました。ブランド化は、JFの職員が漁業者と同じ思いで目標に向かう、協同組合だからこそその協働があったから成功しました」。



JF銚子
組合理事
金野 一男様

銚子の文化に根差した食を通じて、命の大切さを伝える

女性部は魚食普及活動の一環として、県内の小中高校での魚食教室に加えて、新設した第1卸売市場の専用ルームで魚のさばき方教室も開催しています。「魚に包丁を使えない子どもたちにも、食べることは命をいただくことだと知ってほしい」（和田様）、「銚子産の魚種や漁法など、漁業を知っていただく機会でもあります」（石井様）、「第1卸売市場での魚のさばき方教室には、海外の方の参加も。新鮮な魚を食べる日本の文化を広めるお手伝いになれば」（山口様）と話す女性部のみなさん。また、手作り商品の開発・加工、漁師の命を守るライフジャケットの着用を推進する「ライフガードレディース」活動にも取り組んでいます。すべての活動の根幹にあるのは、自分たちの浜——生活、地域、命——は自分たちで守る、という強い思いでした。



JF銚子 女性部
副部長 山口 貴子様
部長 和田 美紀子様
副部長 石井 つや子様

水産業振興に関する当金庫の貢献活動

水産業に対する教育啓発活動

全国漁業協同組合学校(千葉県柏市)は、「協同組合精神を持った漁協職員の養成」を目的としたJFグループで唯一の教育専門機関です。昭和16年に創設されて以来、JFおよび漁村の指導者を多数養成し、送り出しています。高校や大学等を卒業しJFグループ団体への就職を目指す新卒者や、JF・漁連等の在職者が漁業や漁協に関する理論と実務を学んでいます。

当金庫も、賛助会員として、また、一部セミナーの講義等により、将来のJFを担う若きリーダー育成に協力しています。

「豊かな海づくり」運動への協力

当金庫は、昭和56年から毎年開催されている水産業最大のイベント「全国豊かな海づくり大会」に協力しています。

平成27年10月24日～25日には、第35回大会(主催:豊かな海づくり大会推進委員会、後援:農林水産省、環境省)が天皇皇后両陛下ご出席のもと富山県で開催され、当金庫も中央機関として協賛いたしました。

こうしたイベントを通じて、水産資源の維持培養・海の環境保全に対する意識の高揚を図り、水産業への認識を深める活動に支援を行っています。



漁船海難遺児育英資金年末募金(水色の羽根募金)への協力

漁業は、大自然のなかでの厳しい仕事のため、安全管理に最善の努力を払っているものの、残念ながら毎年多くの尊い人命を失う事故が後を絶ちません。

漁船海難遺児育英会は、漁業従事中に起きた海難等事故の遺児に対し、就学上の援助を行っている団体です。当金庫も当育英会設立以来、育英資金の趣旨を理解し、募金に協力しています。



水色の羽根募金贈呈式

JFマリンバンク「海の天気予報」の放送

JFマリンバンクでは、ニッポン放送をキーステーションに全国32局を結んで、JFマリンバンク「海の天気予報」を展開しています。

番組内容

- 全国の臨海地区を結んだ放送局ごとに「海の天気予報」を提供。
- 毎週月～金曜日 朝6～7時台を中心に放送。



ABCラジオでパーソナリティーを務める
けいもと 慶元 まさ美さん

写真提供：JF全漁連



写真提供：JF全漁連

「全国海の子絵画展」への協力

当金庫は、昭和53年から毎年開催されている「全国海の子絵画展」(主催:JF全漁連、後援:文部科学省、農林水産省ほか)に協力しています。

この絵画展は、小・中学生のみなさんが絵を描くことを通して、海に対する興味、漁業に対する理解や夢を持って育っていただきたいとの願いを込めて実施されています。



小学校の部



中学校の部

「JFマリンバンク 浜の応援隊」の活動

当金庫は、JFマリンバンクと女性部など浜の組織との連携を強化し、浜との接点を確保していくため、浜のイベントを活性化させる「JFマリンバンク 浜の応援隊」(女性タレント6名)を結成しました。

平成27年度は、青森県、岩手県、宮城県、福島県、東京都、静岡県、愛媛県、福岡県、大分県で開催さ



「有楽町-2015-OYSTER FESTIVAL」
(東京都・有楽町)

海の子絵画表彰者

平成27年度も「第38回全国海の子絵画展」が実施されました。全国から寄せられた約20,000点もの応募作品のなかから、文部科学大臣奨励賞、農林水産大臣賞をはじめ水産庁長官賞、NHK会長賞、教育美術振興会理事長賞、農林中央金庫理事長賞、JF全漁連会長賞を選出、表彰されました。ここでは、農林中央金庫理事長賞を受賞された方々の作品を紹介します。

れた浜のイベントに参加し、JFマリンバンクのPR活動を行いました。

全国青年・女性漁業者交流大会から

平成28年3月1日～2日には、当金庫も後援する全国の青年・女性漁業者が日頃の研究・実践活動の成果を発表する、「第21回全国青年・女性漁業者交流大会」が開催されました。本大会は、水産庁補助事業のもと、発表を通じて、広く相互の知識や研究を交換し深めることにより、水産業・漁村の発展・活性化のための技術・知識などを研鑽することを目的としているものです。